

<先週の説教から>

## 『クリスマス礼拝—光に照らされてこそ』

武田 真治 牧師

イザヤ書 42:1~7 ヨハネ福音書 3:16~21

クリスマス、おめでとうございます。今年もこうして皆様と一緒にクリスマス礼拝を獻げられたことを心より感謝し、何よりの喜びを感じています。そして、いつもはルカ福音書を読み進めていますが、本日はヨハネ福音書からクリスマスのメッセージを与えられたいと願いました。

ヨハネ福音書のクリスマスマッセージとしては冒頭の「初めに言があった。言は神と共にあった」が何より大事な箇所でしょうが、今日の3章16節「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の生命を得るためにある」もまた重要な箇所です。ルターはここを『小型（ミニアツニアミニチュア）の聖書』と呼んでいます。この言葉が「キリスト教の福音の心（ヘルツニ心、神體）を含んでいるから」であると、どの点がそう言われる理由なのでしょうか？

一つは何より、神様が愛しておられるのは“この世界”という点でしょう。言い換えれば、正しい地域や人々、御自分に従順な存在だけを愛されるというのではなく、神様に逆らい、愚かなことをしてしまう“この世”的すべてを愛してくださっているということです。その中に私たち一人一人も含まれているのではないか？もし、神様が正しい人間だけを愛されるというのであれば、私たちはなかなか愛してもらえないのではないかと思います。そして、それ故に私たちもまた、このどうしようもない世の中であっても（（どうして戦争がなくならないのかと批判しながらも）なお）愛していくのであって、少しでも良き世界へと祈り、力を注ぐことを止めないで生きていく者でありたいのです。

二つ目には、ここでの”愛する”という言葉は（アガバオーニアガペー）である点です。“与える愛”とよく言われる言葉です。まさに、この世界を愛されたが故に「その独り子をこの世に贈って=与えてくださった」のでした。そこにこそ

神様の最高の愛が現れているのです。

現代は特に“ありのままを愛する”“相手が良い気持ちでいられるようにしてあげる”ことが「愛」だと言われます。神様がこの世を愛してくださっているのは、まさにこの世をありのままに愛して下さっていることの印でしょう。ただ、そのままで放っておかれることが「愛」ではないと。その世を救うために敢えてイエス様を贈られた“与える愛”です。『おせっかいだ、暑苦しい』と言われること、嫌われることを覚悟されても、尚、真の救いへと導きたいと願われる「愛」と言い得ます。それがクリスマス=御誕誕の時でしょう。

故に、キリスト教を伝えようとする時に、どうしても『おせっかいだ、暑苦しい』と思われるのは、むしろ当然かもしれません。ただ、相手の状態が『このままで大丈夫かしら？』と思えるような状態にある時には、嫌われても尚、『この道は？』と差し出すことが、真に相手を“愛する”ことでは？

\*\*\*\*\*  
【今週の集会】

\*聖書研究・祈祷会 I. 12月31日(水) 休会  
II. 1月1日(木) 休会

【教勢報告】

主日礼拝 男22 女61 計83

祈祷会 休会

日曜学校 幼稚科19 小中科21 計40

\*クリスマス燭火礼拝 男30 御魔57 計87

\*ひつじ雲の会 12月22日(月) 男0 女4 計4

【次週礼拝 新年礼拝】 1月 4日(日)

聖書：詩編 1:1~3

ルカによる福音書 8:11~15

説教：「新年礼拝・ルカ64—主につながり、根を張り、枝をひろげて」 武田 真治 牧師

讃美歌：368(1)、32、367、497、453、

【次週当番表】 78(1~2)、37(1)

司式：HS長老 奏楽：MA 礼拝：SM長老

配餐：KY KH SM SY 各長老

献金：AA AH 受付：NE MH

会堂準備：AA AT AM YE

看板：HS 週報：II お花：MH

【次週集会予定】

礼拝前：・日曜学校・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後：・お茶の会 ・牧師と語る会

・会堂管理委員会

・長老会

66 - 52

# 週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025年 12月 28日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549